

事業実施報告

開催日	令和4年10月29日(土)～10月30日(日)		
事業名	テンちゃんキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	52人
対象	盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の小学校3～6年生		
関係機関名	岩手大学農学部		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

[事業の内容]

小学校3年生～6年生を対象に、1泊2日の日程でハロウィンをテーマとした体験活動を実施した。企画立案に際しては、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において企画会議や実地踏査、事前準備などを行い、参加者のコミュニケーション力の育成を図るとともに外国の文化に触れることができる体験プログラムを目指して作成した。

参加した子供たちが楽しく安全に過ごすことができるように、子供たち6～7人の8班に法人ボランティア2～3名ずつをグループリーダーとして配置するとともに、統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで、子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにし、コミュニケーションを深め、より楽しく活動できるようにした。また、友達作り、ミニ運動会では、英語を使ったアイスブレイクやハロウィンに関連するクイズを法人ボランティアが考案し、参加者の緊張を解しながら活動に対する興味関心が高まるよう工夫しながら行った。野外炊事では、岩手大学農学部より提供されたかぼちゃを使い「かぼちゃシチュー」「スモア」を調理した。ハロウィンキャンドル製作では、安全に関わる情報を全体共有し活動支援を行うことで、大きなけがや事故もなく活動することができた。

定員50名で募集したが、定員を大きく上回る247名の応募があった。学年や性別のバランスを考慮した上で抽選し、52名の参加とした。

[成果]

・事業後の参加者アンケートでは、事業全体に関する満足度について、98%の参加者から「満足」「やや満足」の評価を得ることができた。

・「楽しかったことは全部です。色々なものができて良かったです。」「初めは、友達ができるか心配だったけど、とても楽しくいるんな事ができてよかったです。」「他校の学年の人とも友達になれてよかったです。また来たいです。」「ボランティアの人がすごく親密的で楽しかった。」などの感想が寄せられた。法人ボランティアが参加者に寄り添い事業を支えていたことを改めて感じさせられた。

・ボランティアの振り返りにおいても、「自分が運営する側に立って見て、指示の出し方や幅広い視野を持つことなどの大切さを感じた。」「ボランティアが連携して子どもたちと事業を進めていてよかった。」「子どもが楽しく安全に活動できていてよかった。」等、事業の成功を感じている意見が多くあった。

・全体で共通理解を図りながら事業運営していくことを目指して、本部ミーティング、スタッフミーティングなどでそれぞれの役割を明確にし組織運営体制を敷き、子供たちの健康や安全に関わる情報は確実に共有できるようにした。今回参加した法人ボランティア28名全員が役割と責任を持ち取り組み、大きなけがや事故もなく無事全日程を終えることができた。

[課題]

・計画初期段階の企画会議や実地踏査、事前準備に携わった法人ボランティアと事業当日のみに参加した法人ボランティアの間に活動内容や役割の理解度、事業に臨む姿勢に温度差が感じられた。事業に参加する法人ボランティアは、事前に行われる「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」へ参加し、理解を深めたうえで事業に参加することを積極的に促す必要がある。

・自主企画事業に向けた準備計画をボランティアが立案し、組織的・計画的にボランティア全体の自主性や企画力を養成できる様にコーディネートしていくことも大事であると感じた。

状況写真



「友達作り」



「野外炊事・かぼちゃシチュー」



「野外炊事・スモア」



「ミニ運動会」



「ハロウィンキャンドル」



「謎解き1089探偵団」